

4 風水害時の行動

早めの避難行動が大切です

風水害は、毎年襲われる可能性のある災害です。山間部の多い青梅市では、特に土砂災害に警戒しなければなりません。地震と異なり、台風接近や長雨が続くなど、ある程度事前に災害発生の予測をすることもできることから、早めの避難行動をとることにより被害を最小限にすることができます。

(1) 土砂災害

土砂災害警戒区域とは

土砂災害から、住民の生命を守るため、東京都が土砂災害防止法にもとづき指定した区域です。

大雨が降ったり、土砂災害警戒情報が発表された場合は、避難行動が必要な区域です。

土砂災害は、一瞬にして建物を破壊し、多くの人命を奪うおそろしい災害です。市では、青梅市民防災マップを作成し、警戒避難体制を整備しています。

土砂災害警戒区域 (1,539か所)

住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域

土砂災害特別警戒区域 (1,444か所)

建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域
※一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われます。

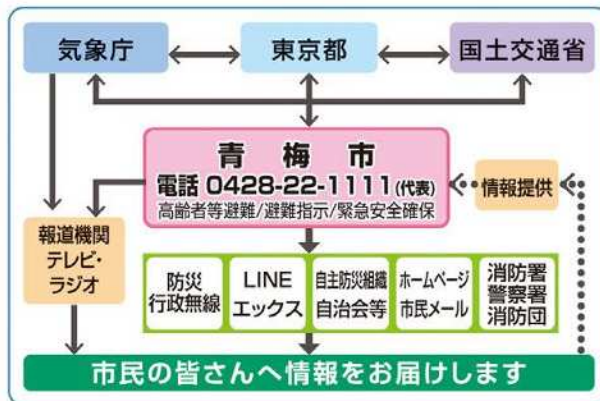
※市HPでも確認できます。また都建設局HPでは詳細図が確認できます(「都建設局 土砂災害」で検索)。

土砂災害警戒情報

大雨警戒が発表されている中で、降雨による土砂災害の危険が高まったときに気象庁から発表される情報です。土砂災害のおそれがある地域にお住まいの方が避難を開始する目安となるものです。

情報の収集方法

土砂災害のおそれのあるときには、大雨警戒、土砂災害警戒情報等の気象情報のほか、青梅市から避難指示等が出されるので、これらの情報に注意しましょう。



土砂災害の特徴と前兆現象

前兆現象がみられた場合は、すぐに避難し、防災課に連絡してください。

急傾斜地の崩壊 (かけ崩れ) 1,118か所

傾斜度が30度以上である土地が崩壊する自然現象

警戒区域
特別警戒区域



前兆現象

- がけから小石がパラパラと落ちてきた
- がけから水が湧き出てきた
- がけに割れ目が見えた

土石流 418か所

山腹が崩壊して生じた土石等または渓流の土石等が水と一体となって流下する自然現象

警戒区域
特別警戒区域



前兆現象

- 「山鳴り」といって、山全体がうなったり、流木が混じっているような音がする
- 雨の降り続けているのに、沢や川の水が減っている
- 沢や川の水が濁ったり、流木が混じっている

地滑り 3か所

土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象、またはこれに伴って移動する自然現象

警戒区域
特別警戒区域



前兆現象

- 地面がひび割れた
- 地下水などの水が、一部分が陥没、あるいは隆起した
- 池などの水の量が急に变化した

(2) 雨・風・台風・ゲリラ豪雨

台風や大雨は、大きな災害をもたらします。被害に遭わないためにも、テレビやラジオ、インターネットなどを通して、台風や大雨に伴う警報等の防災気象情報をいち早く知ることを心掛けるとともに、災害への備えをあらかじめ確認しておくことが大切です。



雨の強さと降り方 (気象庁による)

予報用語 1時間雨量 (mm)	やや強い雨 10以上～20未満	強い雨 20以上～30未満	激しい雨 30以上～50未満	非常に激しい雨 50以上～80未満	猛烈な雨 80以上～
人の受ける イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある 恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる		傘はまったく役に立たなくなる	

風の強さと吹き方 (気象庁による)

予報用語 平均風速 (m/s)	やや強い風 10以上15未満	強い風 15以上20未満	非常に強い風 20以上25未満 25以上30未満	猛烈な風 30以上35未満 35以上40未満 40以上
おおよその時速	～50km	～70km	～90km ～110km	～125km ～140km 140km～
人への影響	風に向かって歩きにくくなる 傘がさせない	風に向かって歩けなくなり転倒する人も出る 高所での作業はきわめて危険	何かにつかまっていなくて立っていられない 飛来物によって負傷するおそれがある	屋外での行動は極めて危険

台風の大きさと強さ (気象庁による)

階級	最大15m/s以上の半径	階級	最大風速
大型 (大きい)	500km以上 800km未満	強い	33m/s以上 44m/s未満
超大型 (非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上 54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

風速 (10 分間平均) をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。

「大きさ」は強風域 (風速 15 m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲) の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

さらに、風速 25 m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

ゲリラ豪雨

ゲリラ豪雨とは、ゲリラ雨、ゲリラ雷雨とも呼ばれ、大気の不安定な状態により突発的に起こる局地的な大雨のことを言います。積乱雲 (雷雲) によって急に激しい雨が降り、降った雨が低い場所へ一気に流れ込むため、総雨量は少なくとも、数十分で甚大な被害が発生することがあります。

ゲリラ豪雨から身を守るためには、天気急変に備え、最新の気象情報を確認することが大切です。

雷や竜巻にも注意しましょう!!

発達した積乱雲により、雷や竜巻が発生することがあります。屋外で行動する場合は、雷注意報や竜巻注意情報などの発表状況を確認しましょう。

線状降水帯とは?

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの様式図

次々と発生する発達した雨雲 (積乱雲) が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50 ～ 300km 程度、幅 20 ～ 50km 程度の強い降水をとまなう雨域を線状降水帯といいます。

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。 (気象庁による)



●ゲリラ豪雨が発生する可能性がある天候

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる。
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。
- 冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

●車を運転中にゲリラ豪雨に遭遇したら

- 事故防止のため昼間でもライトを点け、速度を落とし、すみやかに停車できる場所へ移動し、雨が通り過ぎるのを待ちましょう。
- 鉄道のガード下や立体交差のアンダーパスなど、周囲よりも低くなっている場所が冠水していたら、無理をせずに迂回をしてください。万が一、自動車が冠水した場合はすぐに自動車を止め、エンジンを停止させてから避難してください。

すぐに
身を守るための
行動を!!



- 雷鳴が聞こえたらすぐ避難
- 建物の中や自動車へ避難
- 木や電柱から4m以上離れる



(3) 警戒レベルと取るべき行動

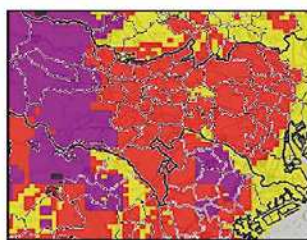
警戒レベルは災害発生の危険度を直感的に理解できるよう避難に関する情報や取るべき行動などを5段階のレベルを用いて伝えるものです。市からの避難情報や気象庁の情報を活用して避難行動をとる準備や対策を行いましょう。また、「特別警戒」が発表された場合は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。ただちに市の避難情報に従うなど、適切な行動をとってください。これらの情報は、**市や気象庁等のホームページ**、テレビの**dボタン**などから確認できます。



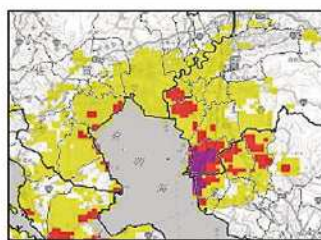
必ずしも、気象情報と同じレベルの避難情報が市から同時に発令されるわけではありません。また、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りませんので、ご注意ください。

警戒レベル	市の発令 (避難情報)	とるべき行動	気象情報 避難の目安となる情報です
警戒レベル 5	緊急安全確保	既に災害が発生または切迫している状況です(命の危険)。直ちに命を守るための最善の行動をとってください。	警戒レベル5 相当情報 氾濫発生情報 大雨特別警戒 等
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難> ~~~~~			
警戒レベル 4 全員避難	避難指示	危険な場所(対象となる地域)から、 <b>全員避難</b> してください。 ※自宅が安全であれば、屋内で安全を確保してください。	警戒レベル4 相当情報 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
警戒レベル 3 高齢者等は避難	高齢者等避難 ※高齢者等以外の人も避難の準備、または、自主的に避難を開始してください。	危険な場所(対象となる地域)から、避難に時間がかかる人等は避難してください。 ※自宅が安全であれば、屋内で安全を確保してください。	警戒レベル3 相当情報 氾濫警戒情報 大雨・洪水警戒 等
警戒レベル 2		避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨・洪水注意報 等
警戒レベル 1		災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報

- **キキクル(危険度分布)** 警報が発表されたときや、強い雨が降ってきたときに、どこで土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。



土砂キキクル  
(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)



浸水キキクル  
(大雨警報(浸水害)の危険度分布)



洪水キキクル  
(洪水警報の危険度分布)

### ● その他の情報



<https://www.micosweb.jp/web/ome/>



<https://tokyo-ame.jwa.or.jp>



<https://tenki.jp/amedas/3/16/>

■ 青梅市メール配信サービス → 使用方法是3pへ

■ 青梅市ホームページ <https://www.city.ome.tokyo.jp>

■ 青梅市公式エックス @ome_city_tokyo

## (4) 洪水(多摩川の水位危険度レベル)

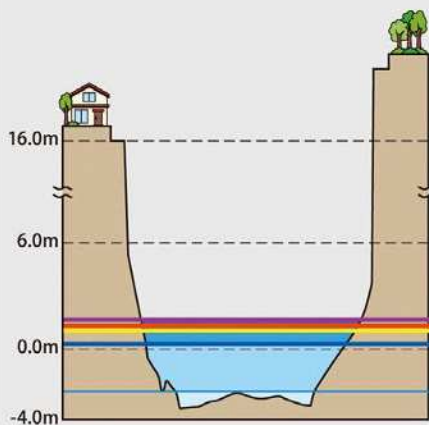
洪水時には、洪水予報が国や都、市から発表されることがあります。安全のために、情報の種類に応じて適切な行動を取りましょう。



避難指示等は河川の水位やその後の降水見込みを踏まえ発令されます。



調布橋水位観測所における水位  
所在地：青梅市(調布橋下流)



水防団待機水位 (指定水位)	氾濫注意水位 (警戒水位)	避難判断水位 (特別警戒水位)	氾濫危険水位	氾濫発生
この水位を超えると関係機関が水防活動の準備に入ります。	洪水の発生を警戒すべき水位で、水防団出動の目安となる水位です。	避難行動要支援者が、避難行動を開始する基準となる水位です。	避難指示発令の基準となる水位で、家屋浸水等の被害を生じる氾濫のおそれがある水位です。	既に災害が発生または切迫している状況です(命の危険)。
テレビ、ラジオなどで最新の気象・洪水情報に注意し、警戒を強めてください。   また、避難行動要支援者とその支援者は、避難の準備を整えましょう。	避難行動要支援者とその支援者は避難を開始し、その他の方は避難の準備を整えましょう。   避難の際は、河川のそばやがけの近くなど、危険な場所は通らないようにしましょう。	すみやかに避難場所または近隣の安全な場所へ避難しましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅の2階以上で、がけからもっとも離れた部屋など、より安全な場所に避難しましょう。	直ちに命を守るための最善の行動をとってください。	

### ●河川の水位情報



<https://www.river.go.jp/kawabou/ipTopGaikyoo.do>



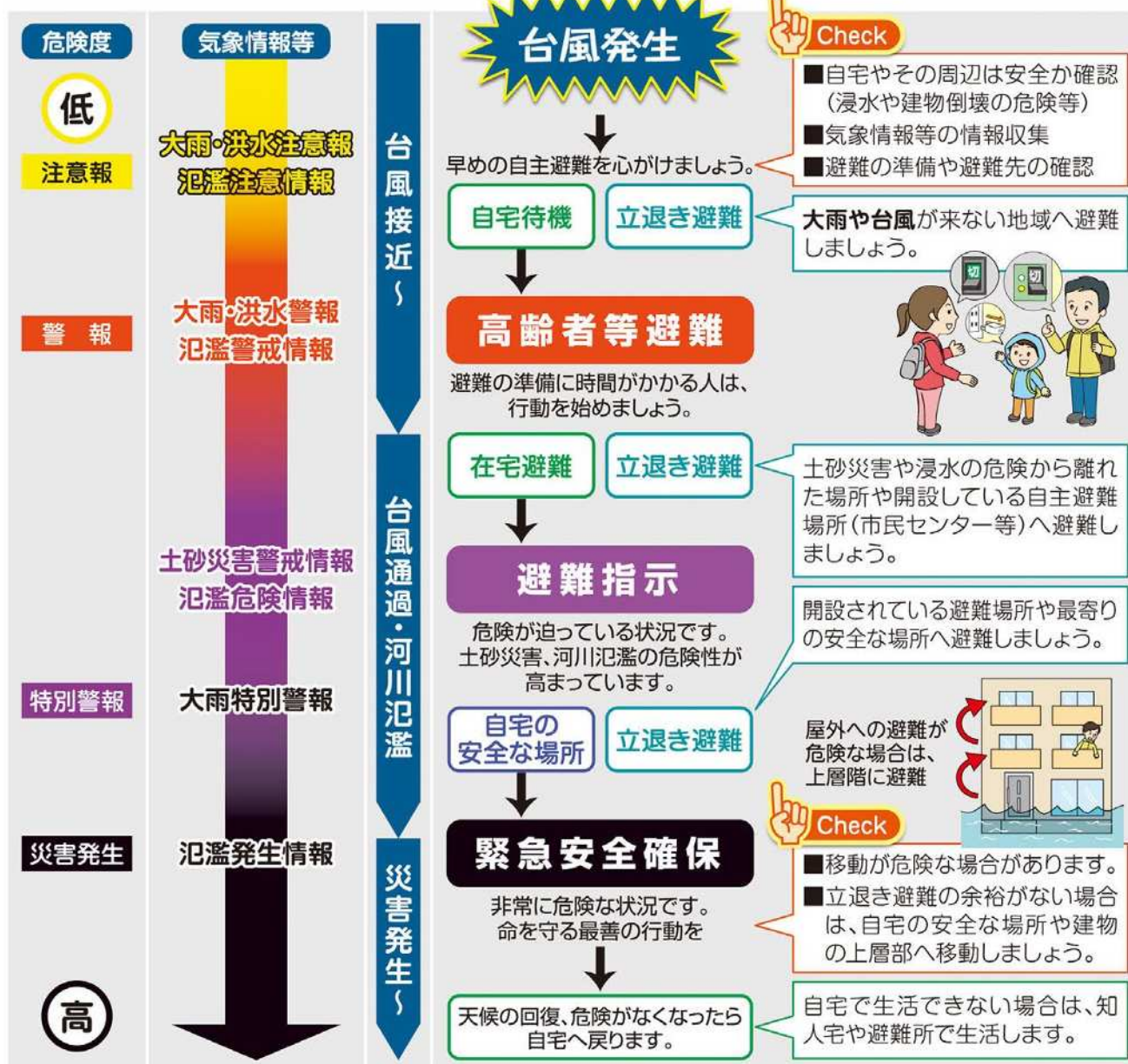
[http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/im/uryosuii/tsim0103g_441408.html](http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/im/uryosuii/tsim0103g_441408.html)



[http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/water_flood_sim/tamagawa/tamagawa2/gyakubikiTop.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/water_flood_sim/tamagawa/tamagawa2/gyakubikiTop.html)

## (5) 避難の流れ

台風や集中豪雨などから身を守るために、早めに避難してください。



## (6) 避難行動

土砂災害警戒区域内にお住まいの方で、立退き避難ができない場合は、最低限、屋内安全確保を行ってください。

## 立退き避難

自宅などに危険が迫っている場合は、市が開設する避難場所、親戚宅・知人宅などの安全な場所へ避難します。  
※風水害時に避難指示等を発令する場合は、開設する避難場所についても併せてお知らせします。



- 例えば
- 堤防の決壊で家屋消失・浸水の危険がある地域に住んでいる。
  - 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
  - 子どもや高齢者など、家族に要配慮者がいる。



とにかく  
早期の避難！

屋外へ避難  
(指定避難場所や親戚宅・知人宅など)

- 1人での避難はできるだけ避けて
- こどもから目を離さずに
- こども、高齢者、病気の方などは避難に時間がかかるので、早めの避難を

- マンホールや側溝に注意
- ひもで結べる運動靴で避難



- 土砂の流れる方向に対して直角に避難
  - ・土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまう。

- 車が浸水したらすぐに車外へ
  - ・水深が約15～20cm前後に達すると、車のエンジンが停止する可能性がある。
  - ・水深と流速が増すと車ごと流される危険もある。

## 屋内安全確保



災害時に身の危険が迫っている中で、安全な場所まで避難する時間がない、または、避難場所等への移動が危険を伴う、もしくは、困難な場合などは、2階以上に避難します。

また、がけなどの危険な場所から最も離れた部屋へ避難しましょう。



- 夜間や急激な降雨で避難路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。
- 水の流れる速度が速かったり、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

### 屋外の移動は危険！

浸水による建物倒壊の危険がない場合は  
自宅の2階以上へ避難！



自宅の安全な場所へ避難(がけから離れた2階以上など)

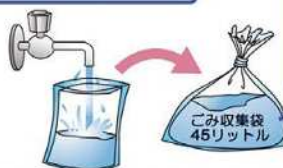
- 家の中心部に近い、窓のない部屋や、がけなどの危険な場所から最も離れた部屋へ移動
- 窓、雨戸、カーテンを閉める

- 家の外の飛ばされそうなものや、流されそうなものを、あらかじめ室内に収納

## ！ 浸水しそうなら

## 家庭でできる簡易水防工法

### ごみ袋で作る簡易水のう



**ポイント!!!**  
水を入れ過ぎないこと！  
重過ぎて運べなくなるので要注意です！！

◎45リットル程度の容量のごみ袋を二重にし、中の袋に半分程度の水を入れます。中の袋をひもでしばり、外袋もひもでしばれば完成！

### 家庭にある物を利用した簡易水防工法

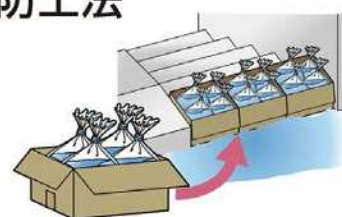


◎水を入れた10～20リットルのポリタンクを並べ、レジャーシートでくるめば完成！

◎土を入れたプランターをレジャーシートでくるめば完成！玄関等の前に設置すれば浸水を軽減できます。



簡易水のうと長めの板を組み合わせてもOK！



◎簡易水のうを玄関等の前に隙間なく詰めると浸水を軽減できます。また、ダンボール箱に入れると強度が増します。

### 意外な場所からの浸水防止

- ◎大雨等の時には、洗濯機やお風呂場の排水口、トイレからなど、思わぬところから下水が逆流することがあります。
- ◎台風や大雨前には、排水口やトイレは水のうでふさいでおくとう安心です。

